



川のイベントを通して住民と共に地域を盛り上げたい

NPO法人北上川サポート協会 理事長
吉田達男さん 川崎町門崎・62歳

団体を立ち上げたときから、川とのふれあいをテーマに、イベントや清掃活動を実施。1995年から行っている「北上川流域交流Eボート大会」は今年で21回目を迎えます。イベントを継続できるのは、地域住民の皆さんの理解と協力のおかげ。新市になってからは、旧川崎村以外の地域からの参加者やリピーターが多くなり、うれしいです。

若い協会員は発信力もあり、新しいアイデアを次々に提案してくれるので、イベントがどんどん進化しています。これからも川の保全活動を行いながら「川っ子祭り」など独自の事業で地域を盛り上げていきたい。



単なる観光スポットではなく気持ちを癒やせる場所に

狛鼻溪船頭
千葉美幸さん 東山町長坂・42歳

狛鼻溪初の女性船頭になって15年。現在、船頭は30~40代の若い世代が増え、女性は2人になりました。

合併して、一関と東山の距離が近づきました。観光客の中には、厳美溪と間違えて来る人も。間違えたとしても、両方の魅力を楽しんでもらえるようにしています。

私たちの節目は、東日本大震災です。2011年から復興支援として「賑わい祭り」を実施。単なる観光スポットだけでなく、皆さんの気持ちのそばにそっと寄り添い、癒やせるような場所でありたいですね。

船頭にとって、狛鼻溪を訪れる人とのふれあいは宝物。これからも、どんどん狛鼻溪を盛り上げていきたいです。



世界に文化を発信するには世界を知ることが大切

藤沢町国際交流協会 会長
岩渕英生さん 藤沢町黄海・65歳

藤沢町の国際交流は、1983年にオーストラリアから講師を招いたことが始まり。2005年まで同国から夫妻で計16組32人を講師として採用しています。1990年には、中生高生ホームステイ短期留学事業を実施。93年には、豪州デュアリンガ町（現セントラルハイランズ市）と国際友好親善の提携を調印しました。96年からは、ベトナムとの交流も。

地域の人たちの熱心な草の根活動と支援が事業を支えています。藤沢では、外国人との交流は当たり前になっています。他の地域にも取り組みが広がり、藤沢だけでなく一関の文化も世界に発信できればと考えています。



人情あふれるおもてなしの心 全国に誇れる一関の魅力

いちのせきハラミ焼なじょったべ隊 鶏総裁
山本郷さん 室根町大里・41歳

なじょったべ隊は食を通じて、一関の魅力を全国にPRするまちおこし団体。10月3、4日の両日には国内最大級のまちおこしイベント「B-1グランプリ in 十和田」に参加します。今年は、素材のタマネギを農協青年部や室根西小学校児童らの協力で、全量一関産にすることができました。地場産の素材を使うことでハラミ焼の価値も高まったと思います。

「一関頑張っているな」と感じてもらうことが、まちの発展につながると信じています。活動に楽しさをうまく取り入れ、一過性の取り組みにならないよう、仲間づくりも進めます。



旧校舎を拠点に住民が総参加 現状打開は行動あるのみ

京津畑自治会 会長
伊東鉄郎さん 大東町中川・61歳

京津畑は大東地域の最北端。人口は150人ほどで高齢化率も45%。ともすれば活気を失う環境でした。10年前、興田地区では5つの小学校が統合。閉校した京津畑小学校の活用が地域の課題になりました。3年の議論の末、グリーンツーリズムと集会施設の役割を持つ「山がっこ」として2011年7月にオープン。今では地区外からの利用者も多く、盛んに交流が行われています。秋に行う「食の文化祭」には、千人を超える来場者が訪れます。閉校から10年。山がっこを訪れる皆さんとの交流が市内の他の地域との距離を縮め、そして京津畑を元気にしています。



歴史が育んだ中世の農村風景 誇り高いロマンの園を守る

本寺地区地域づくり推進協議会 会長
佐藤 勲さん 本寺・71歳

2004年に同協議会を結成し、09年から古曲田屋、若神子亭、展示棟がオープン。現在は、さまざまなイベントを開き、17年の世界遺産の追加登録に向けて、活動に一層力を入れています。知名度が上がり、本寺を訪れる人も増加。しかし、ここはただの観光地ではありません。ここにあるのは、長い歴史が育んだ中世の農村風景と精神を感化させる美しい山々、そしてロマンです。多くの人に「中世の風」を感じてほしいですね。

生活を続けることで、守ってきた農村景観。この営みや思いを次世代へ継承することが、今後の課題です。「ここに生まれてよかった」と思われるような地域づくりをしていくことが、私の使命です。



協調と調和。互いを認め合う意識が成功につながった

せんまや夜市実行委員会 副会長
金野茂人さん 千厩町千厩・63歳

1982年から始まった「せんまや夜市」は2015年で33年目。開催回数は250回を超えました。市の地域づくり事業を活用して、サンバやハロウィンなど、個性的なイベントを開いて集客を伸ばしています。

夜市の運営は、互いが役割を熟知していることが強み。自ら進んで準備や片づけに参加してくれます。青年会などの若い世代にも、この意識は伝わっています。これからは、お互いが協力し、力を貸し合う意識を養い続けたいですね。商店街が活気にあふれる姿は見ていてうれしい。町が一丸となり、一過性ではない取り組みとして盛り上げていきたいです。



心を一つに夢を追いかける 新たな絆組みを作った

わくあい 涌老野球クラブ 監督
千葉三男さん 花泉町涌津・65歳

息子が涌津小3年の時から指導を始め、今年で32年になります。2007年に老松小とスポーツ少年団を統合。現在は、油島小の子供たちも一緒にプレーし、野球好きの子どもたちが試合に出場できる環境を整えました。

スポ少の統合も時代の流れ。当初は、練習量や練習内容も異なり、苦勞もありました。何より心掛けたのは、子供たちの心を一つにすること。選手、保護者、指導者の気持ちが一つになったときは、大会を勝ち上がっていきます。子供たちには「勝っても負けても、笑顔、元気なあいさつ、相手を思いやる心を忘れないように」と話しています。



情報発信が付加価値を高める
 人々の営みに終わりはありません。8つの地域は、個性あふれる取り組みを合併後も続けてきました。合併を機に、新たな取り組みを始めた地域もあります。これからは、他の市町村にはない、ときめくような地域の取り組みを「一関の魅力」として市内外に情報発信することで、さらなる発展の可能性が見えてきます。

目指すのは唯一無二のまち
 地域協働とは、地域の自治会や民区、集落公民館、各種団体などが特性や課題を共有し、役割分担しながら地域を活性化させることです。市では、市内31の旧公民館単位で、まちづくりの中心となる地域協働体の設立を目指しています。生涯学習の拠点である公民館は、本年4月から、まちづくりの拠点としての機能が加わった「市民センター」に生まれ変わりました。

Keyword.1 協働 **キラリ輝く8つの個性**

これからのまちづくりには「一体感の醸成」と「特色ある地域づくり」の両立が不可欠です。行政の主導の取り組みから地域が主体となった取り組みへ。互いの役割を分担することが大切です。